

## 産業用マルチメディア技術

尾崎 稔\* 塩谷景一\*\*\*  
亀山正俊\*\* 浅野光雄+  
黒田伸一\*

要旨

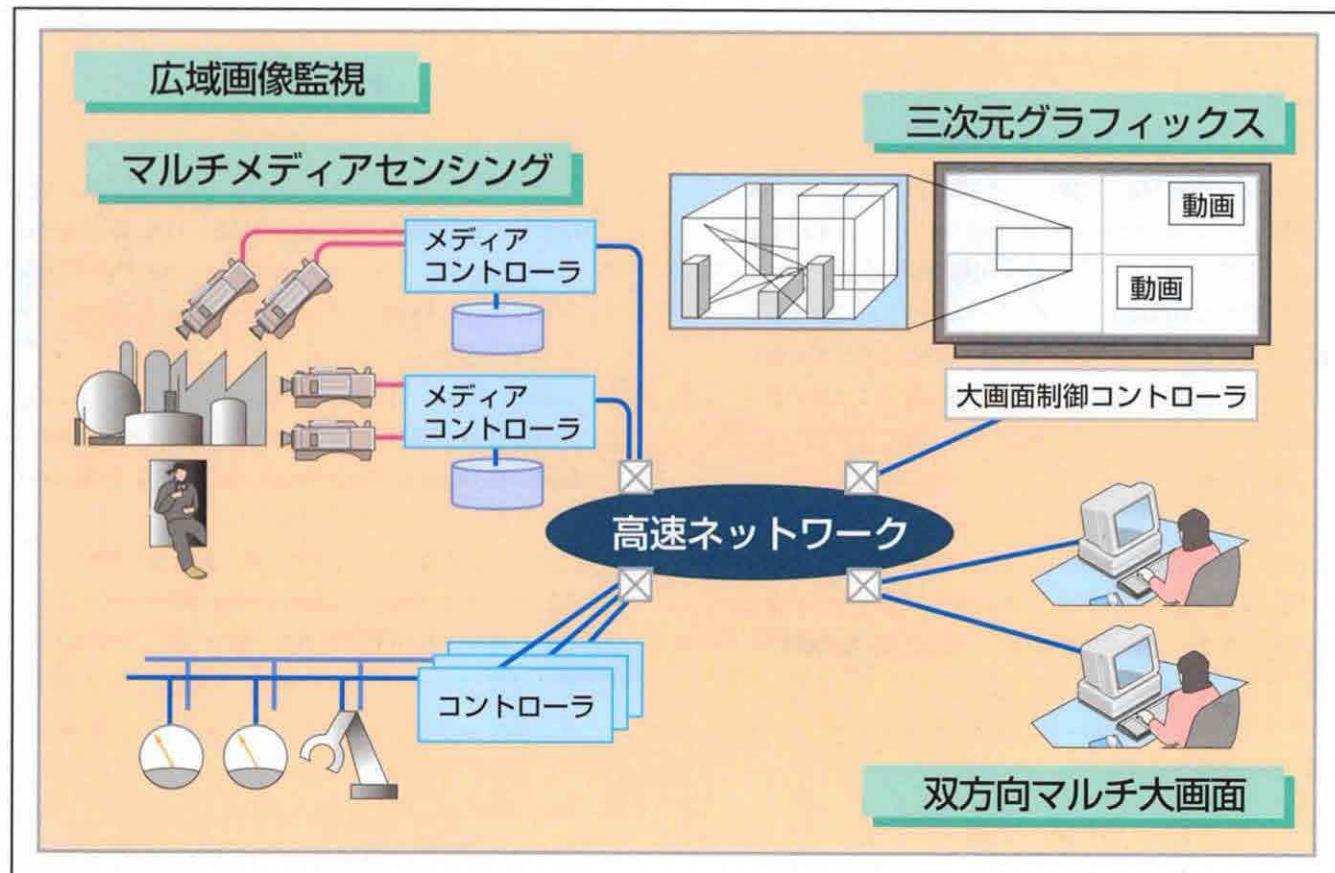
マルチメディア技術の適用先を大きく分けると、①個人家庭用、②ビジネス用、③監視制御・保守管理・意思決定の支援をねらう産業用に分類できる。本稿では、産業用を視点に開発している特長的技術について述べる。

産業用の表示では、余裕のある分かりやすい表示、監視員同士の情報の共有機能が要求される。その要求にこたえる高精細な大画面上で入力指示可能な双方向マルチ大画面表示システムを開発した。

現場の実映像は、監視員にとって直感的で、異常警報時の判断の手助けになるが、當時監視は監視員への負担が大きく、現状ではうまく活用されていない。広域に多数分散

する監視カメラ映像を活用するためには、いつでも即時に見直しができる映像蓄積機能が必要であり、その機能を前提として広域画像監視技術を開発した。また、映像や音響信号から自動的に異常を検知し、監視員を支援するマルチメディアセンシング機能も開発している。

産業用への三次元グラフィックス利用では、単に美しく臨場感ある表示が求められるのではなく、監視対象を三次元としてモデリングし、監視対象と比較する機能を備えることによって間違いを起こしにくくすることが技術課題であり、そのための技術も紹介した。



産業用マルチメディア技術

高速ネットワーク、動画像圧縮、画像／音響認識、三次元グラフィックス表示などの汎用技術の上に、監視制御・保守管理・意思決定への適用技術を“産業用マルチメディア技術”としてとらえ、双方向マルチ大画面技術、広域画像監視技術、マルチメディアセンシング、三次元グラフィックス技術を開発している。